

資料 1

認知症と共に生きる川柳の入賞者の選考結果 お題『認知症にやさしいまち』（入選20作品）

※ペンネーム「ー」は実名での応募者

項番	川柳	年齢	ペンネーム	解説
1	そうじゃねと よりそう心の くれのまち	70	ノンアルで 酔うジイジ	年を重ねるとご近所のありがたさが身に沁みます。みなさんに温かく見守ってもらい、うれしいです。呉のまちが大好きです。
2	歩こうよ みんなのところが 杖代わり	45	おれんじ	認知症の人でも気軽に外に出かけられる地域づくりが必要だと思います。
3	忘れても あなたのままで 暮らせるよ	70	新米の70才	もの忘れがあっても、その人らしく、地域に見守られながら暮らせるようになればと願っています。
4	意気揚々 買い物帰ると 杖届き	48	なのはな	気分良く買い物へ行き、買い物で頭がいっぱいで杖のことを忘れていた
5	老いければ みんなちがって みとめあい	79	つきみ草	年老えばそれぞれの違いをわかり合う寛容さ
6	おおらかな 町が見守る 認知症	85	むかしの美人	軽度の認知症だった夫が旅立ちました。周りの皆様に親切にしてください感謝しています。
7	徘徊も 一緒に歩けば いい時間	17	ー	徘徊する人にもきっと何か思いがあるのではないかと思います。「出ないで」「じっとしていて」と言わず、一緒に歩いたり散歩に出かけ、色々な話や思いが聞けたらいいと思います、この句を考えました。
8	勇気出し 「お困りですか？」 声かける	23	NT	勇気を出して、自ら声をかけることで、よりよい町にする。
9	放送に 耳そば立てて 安堵する	68	ー	実家で一人暮らしになった母のことを思い書きました。
10	つなぐ手の 波紋広がる 港まち	60	ー	認知症になっても安心して暮らせるサポートの手が差し伸べられ、繋がった手と手の輪が波紋のように広がっていく町であってほしい。

項番	川柳	年齢	ペンネーム	解説
11	この街で 生きてくあなたと 手をつなぐ	72	万治子	老いは誰にも来るけれど、笑顔があるような生活をしていただきたい。人に優しく、自分にも優しくありたいと思っている。
12	出かけても オレンジリングに 見守られ	79	猫バーバ	ある日突然分からなくなっても、安心できる呉の町
13	だいじょうぶ ここはそんな まちじゃけえ	87	ごんたくん	私の住んでいるまちは、そんなところですよ。
14	まちじゅうで 見守られてる 安心感	41	モーニンさとし	記載なし。
15	迷っても 我がことつながる 呉のまち	70	おとなりさん	地域の中に散歩に行くとき時々帰り道が分からなくなることがおられ、地域近所市全体で協力して対応されている様子を思い浮かべて作りしました
16	認知症 知れば始まる 認・知・笑	45	七転び八起き	自分や家族が認知症かもしれないと不安に思ったら、早めに医療機関などに相談すれば早期発見、治療につながる。また、周囲の理解も得ながら元気で楽しく認知症と共生しやすくなる。悩みを抱え込まずまずは相談を。
17	寄り添って 見守りながら すごすまち	72	—	記載なし。
18	大丈夫 たよってほしい わたしたち	13	—	認知症の人も安心できるように、私達が支えていきたいと思ったから。
19	忘れても 覚えているよ あたかたかさ	59	—	目の前のおこっていることは忘れるけど、やさしくされたりした事、笑顔は感覚の中で残っているのです
20	無事保護と 市内放送 安堵する	72	なべちゃん	行方が分からなくなった、との放送がながれ心配していたところ、無事に発見されたこと感謝の放送があってほっとしたことがあり、その時の気持ちを詠みました。